

きらきら発電定期総会・十周年記念集いのご案内

とき 5月6日（火）午前11時より

ところ 若林クリニック

[〒984-0832 宮城県仙台市若林区下飯田遠谷地 174](tel:0984-0832) [022-289-8588](tel:022-289-8588)



仙台駅にて井土浜行か沖野行に乗車、東高校入口にて下車。六郷交番所前で七郷方面に左折、するとすぐに右手に若林クリニックに通じる道路あります。仙台駅、沖野行 10:00 発、井土浜行 10:15 発、東高校入口行 10:30 発です。

十周年記念のつどい

2015 年 4 月に結成されたきらきら発電が 10 周年を迎えます。若林クリニックにてつどいを開きますので、ぜひご参加ください。十年のあゆみを共に振り返り、今後の 10 年を語り合いたいと思います。午前 11 時～12 時、昼食付、事前に予約願います。同封のハガキにてご返事ください。ハガキをもらっていない方は、070-2010-3777(広幡)にご連絡ください。

定期総会の案内

- 12 時半 開会あいさつ 広幡 司会交代
理事長あいさつ
12 時 45 分～13 時 30 分 活動報告と決算報告・予算提案、役員留任の提案 広幡
13 時半～13 時 50 分 討論と採択
13 時 50 分～14 時休憩

記念講演 オンライン

- 14 時～15 時半 記念講演 オンライン
もがみ地産地消エネルギー合同会社赤川健一氏
テーマ「エネルギーの地産地消」
講演は 1 時間、のち 30 分質疑応答。
赤川健一氏の自己紹介の文書を裏面に印刷しています。

エネルギーの地産地消を実現

—— もがみ地産地消エネルギー合同会社業務執行役 赤川健一さん

帰郷したふるさととは、エネルギー利用による森林再生をめざしていた。町の森林をなんとかしたい、林業を支えたいという思いで、エネルギーの地産地消をめざす団体を立ち上げ、地域新電力会社を設立。脱炭素の主体をめざしている。



南側の壁面に太陽光パネルを設置している最上町役場。豪雪地帯に位置する最上町では、パネルを屋根に載せると冬の発電量が減少するため、壁面に設置する建物が多い

わたしがエネルギーについて考えることになったきっかけは、二〇〇九年に東京からUターンして、新築した自宅にまきストーブを導入したことでした。燃料となるまきを確保するために共有林を切らせてもらい、まきにすることを通じて、地域にある山の木を利用すれば自分たちで熱エネルギーをつくることができることに気がついたんです。

ほどなく、「やまがた自然エネルギーネットワーク」に出会い、より最上エリアにフォーカスした「もがみ地産地消エネルギー」を設立しました。

わたしたちが考えるエネルギーは、熱や電気という物理的なエネルギーはもちろん、人の精神的なエネルギーも含みます。自分たちが使うエネルギーは自分たちでつくり、自分たちの地域は自分たちで変えていく。そんな人のエネルギーあふれる地域の実現をめざしています。

わたしたちは再エネの普及啓発を行いながら、「木の駅プロジェクト」にも取り組んできました。木の駅とは、林地残材や間伐材を買い取り、地元の商店で使える地域通貨「もつけん」で支払うことによって、森林整備を進め、地域経済を回すとともに、地球温暖化を防止しようという活動です。

登録者は二十数人に、地域通貨が使える店は一八軒に増えました。町が助成金を出していることもあって、まきやベレットストーブを導入する家庭も一年に数件ずつ増えていきます。現在は、プロジェクトを活性化するため、地域通貨をデジタル通貨にする可能性を探っています。

脱炭素の担い手をめざす

一九年、再エネによる地域再生を図る各地の取り組みを描いたドキュメンタリー映画「おだやかな革命」の上映会を



あかがわ・けんいち

1978年、最上町生まれ。東京大学大学院理学研究科修了。2009年にUターンし、まきストーブの導入をきっかけに、再エネの普及をめざす活動に参加。Webコンテンツ制作の仕事しながら、地域新電力会社の運営を担っている。

きっかけに、エネルギーの自立をもっと進めようという機運が高まりました。そこで、電力の小売り事業からスタートしようという準備を重ね、今年三月にメンバー七人で、もがみ地産地消エネルギー合同会社を設立しました。

山形県はエネルギーの地産地消や県内経済の活性化をめざして、県と県内企業五〇社が出資して(株)やまがた新電力を設立しました。わたしたちはやまがた新電力の取り次ぎとして、一二月から町の公共施設二か所に電力の供給を開始します。そして、いずれは地域新電力会社として独立し、町内に再エネ電力を増やしていきたいと思っています。

二一年、最上町は五〇年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにするゼロカーボンシティをめざすと宣言しました。わたしたちは、その実現を担う主体になりたいと考えています。